

資料 9

上野山構成員提出資料

第 3 回 デジタル行財政改革会議 コメント

国/地方/準公共のデジタル基盤整備の統一・共同化に関して

令和 5 年 12 月 20 日 株式会社PKSHA Technology
代表取締役 上野山 勝也

1) 複数組織を横断するシステム設計: 市民から遠い部分(バックエンド/インフラ) は共通化し、市民から近い部分(フロントエンド/アプリ) は一定の個別化を許容する柔軟性を担保

- バックエンド部分はトップダウンでアーキテクトすることの重要性が高い
 - 現在進めている主要20業務のシステム標準化は基本業務として共通化
- フロントエンド部分はボトムアップ的な取り組みも一定進めることが重要
 - 例: 行政サービスのタッチポイントでは、市民のデジタルリテラシーに応じて、スマホ完結と、スマホ入力を人がサポートを併用する 等

→ 2つを並行して進め、すり合わせていく (境界部分の事前設計は重要)

2) デジタル化の恩恵は [1]: 生産性向上 に留まらず、[2]: 民意の政策反映方法の進化であり [3]: 人と人との違いを包摂する「パーソナライズを可能」にできることにある

- 第一に、生産性向上 / 自動化 # ここに目が行きがち
- 第二に、市民の声の見える化(EBPM) / つながりを増やす
- 第三に、個別化されたおもてなし # こそが、” 誰ひとり取り残さないデジタル化”

→ プッシュやパーソナライズの推進 (=多様な市民を包摂することでもある)

3) (一般論として) ソフトウェアの設計(特にフロントエンド) には [技術] だけでなくユーザーにどのような体験をしてほしいかという[意思/思想]が重要であり、本件も然るべき熟議/発信を継続していく

- 例:市民の声を取り入れ、市民の多様性を包摂する” 柔らかな行政システム” への進化
- 例: 最初はデジタル入力を人が寄り添いサポート etc # 人とソフトウェアの共進化

→ ユーザー体験の背景にある[意思/思想] の熟議と 然るべき発信を行う
(AIの議論が本格化する近未来の最重要論点とも大部分が重なる)

以上